

序言——特集の経緯

大 沢 真 理
佐 藤 岩 夫

東京大学社会科学研究所（以下、本研究所）では、1964年以來、3年ないし5年程度の期間を設定し、研究所の多くのスタッフが参加する学際的・総合的な共同研究プロジェクトとして全所的プロジェクト研究（以前は「全体研究」）を継続的に実施している。2010年度から2013年度には、大沢真理をリーダーとする「ガバナンスを問い直す」プロジェクトを実施し、その成果を、『ガバナンスを問い直すⅠ・Ⅱ』（東京大学社会科学研究所・大沢真理・佐藤岩夫編、東京大学出版会、2016年11月）などとして刊行した。プロジェクトのねらいおよび経過は、同書、とくに第Ⅰ巻「序論 ガバナンスを問い直す——なにが問題か」（大沢真理執筆）をご参照いただきたい。

本研究所の全所的プロジェクト研究は、研究のプロセス自体が、所外の研究者に対しても開かれたかたちで実施されるだけでなく、その成果についても、その都度、外部の研究者の評価と批判を仰ぎ、その結果をプロジェクトの参加者が各自の研究に活かすとともに、本研究所の後続のプロジェクトにも役立てていくことを常としている（なお、2016年度から、新たな全所的プロジェクト研究として、玄田有史をリーダーとする「危機対応学」が発足し活動している）。

「ガバナンスを問い直す」プロジェクトについても、上記書籍の刊行を機に、外部の第一線の研究者を招聘し、公開の合評会を開催した（社研セミナー「『ガバナンスを問い直すⅠ・Ⅱ』をめぐって」、2016年11月8日15時～17時、於東京大学本郷キャンパス福武ホール）。当日は、政治学分野から三浦まり・上智大学教授、経済学・コーポレートガバナンス分野から久保克行・早稲田大学教授、法学分野から山本隆司・東京大学教授の三氏に書評報告を依頼し、各報告に基づいて評者と執筆者との間でリプライおよび議論を行った。本特集はこの合評会の記録を再現し必要な補筆を行ったうえで収録したものである。大変ご多忙なか書評報告の労をおとりいただいた三浦、久保、山本三氏に、主催者として、この場を借りて厚くお礼を申し上げる。

以下、本特集の各論攷に示されるように、書評報告三本では、プロジェクトの成果について、各報告者の豊かな知見と鋭い洞察に基づく考察が展開され、これに対して執筆者からも率直な応答が行われた。奥行きのある報告と質疑を通じて、本プロジェクトのねらい

と意義が一層明確な形で浮き彫りになった。本特集の各論攷を含め、「ガバナンスを問い直す」プロジェクトの成果（本書以外のプロジェクトの研究成果の一覧は、本書冒頭の『『ガバナンスを問い直す』刊行にあたって』に収録されている）が、多くの研究者・関係者の関心を引き、刺激を与えることによって、本研究所の今後の研究にも活かされるならば幸いである。

『ガバナンスを問い直す I・II』

（東京大学社会科学研究所・大沢真理・佐藤岩夫編、東京大学出版会、2016年11月）

目次

『ガバナンスを問い直す I 越境する理論のゆくえ』

序 論 ガバナンスを問い直す——なにが問題か（大沢真理）

第 I 部 ガバナンスとはなにか

第 1 章 政治思想史におけるガバナンス（宇野重規）

第 2 章 経済ガバナンスの目的と手段（加藤 晋）

第 3 章 ガバナンス・アプローチと EU 研究（平島健司）

第 II 部 なぜガバナンスか

第 4 章 企業統治と法制度の役割——会社法制を中心に（田中 亘）

第 5 章 歴史の中のガバナンス（五百旗頭薫・宇野重規）

第 6 章 参加と協働に潜む葛藤——地域における福祉ガバナンス（朴姫淑）

第 III 部 ガバナンスで捉える

第 7 章 「再生産」とガバナンス——政治社会学から（武田宏子）

第 8 章 世代間問題とガバナンス（佐々木弾）

第 9 章 ガバナンス（論）における正統性問題（藤谷武史）

『ガバナンスを問い直す II—市場・社会の変容と改革政治』

第 I 部 家族・生活・地域

第 1 章 家計生産のガバナンスと社会の均衡

——「家事分担に関する妻の選好」を例に（不破麻紀子）

第 2 章 日本における女性就業の地域差（安部由起子）

第 3 章 多極化する都市空間のガバナンス——境界を開く法の役割（高村学人）

第4章 災害と民主主義・多様性

——リスク・ガバナンスの3次元理論に向けて（スティール若希）

第II部 企業・市場

第5章 株主価値最大化がもたらすもの

——労使関係論から（南雲智映・中村圭介）

第6章 経済政策のガバナンスとは

——構造改革は事態を悪化させた（大瀧雅之）

第III部 改革政治

第7章 イギリスにおける政権交代と福祉ガバナンスの変容（今井貴子）

第8章 消費税増税と日本のガバナンス（グレゴリー・W・ノーブル）

第9章 「政治の司法化」とガバナンス（佐藤岩夫）

総括 本プロジェクトの意義と拓かれた課題（大沢真理・佐藤岩夫）